

「永遠の命に至る水」

イザヤ書 第49章9節b～13節
マタイによる福音書 第4章7節～15節

説教 岡村 恒牧師

「わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。(14節)この日主イエスがサマリヤの女性に言われた言葉です。

乾燥が激しいこの地方で、朝に夕に貴重な水を汲んで運ぶことは女性たちの重労働でした。主イエス・キリストは、通常ユダヤ人が避けるサマリヤ地域を通って行かれました。お昼頃、食料を買いに出かけた弟子たちの帰りを待ちながら、空腹の主イエスがシカルの井戸に座っておられました。そこに一人の女性がやってきます。

普通なら、まだそれほど暑くない朝早くに人々は水を汲みに来ます。この女性は、他の人と出会うことのない正午頃、一番厳しい時間帯に水を汲みに来なければなりません。後にしるされているように、5度の結婚を経験し、今一緒にいる男性は夫ではない、という特別な事情を抱えていたからだと思います。

「水を飲ませてください」と主イエスはこの女性に言われました。このサマリヤの女にとって、目の前にいる人物は最初「ユダヤ人のあなた」でありました。見ず知らずの、普通なら反目しているユダヤ人です。この出会いは、この女性にとって不審な、驚くような出会いです。そしてここから続く会話は、ずっとすれ違ったままで、かみ合いません。食い違う会話を通して、主イエスはこの女性に出会い、この女性の魂の奥底にある痛みと悲しみに触れられます。

主イエスは、「もしあなたが、神の賜物を知っており」またご自分がどういうお方かを知っていたら、この出会い、この会話がすっかり違うものになるだろう、と言われました。井戸のほとりで、水を汲む道具を持っている女性は、目の前にいる人物と自分の関係が変わっていくことを感じていきます。主イエスに呼びかける言葉がどんどん変わっていきます。「ユダヤ人」から「主よ」となり、「父ヤコブよりも偉いのですか?」と尋ね、やがて「預言者」、「メシヤ」とまで言い切るようになります。

主イエスに出会い、語りかけられる時、最初には不信感を抱きながら問い返していた女性が、やがて主イエスがどなたかを知るようになり、信仰を告白するまでになっていく。この会話の中には、私たち一人一人と主イエスの出会いの

姿が現わされていきます。

この女性にとって、シカルの井戸は命を支えるものです。この井戸から得る水がなければ、今日を生き、明日を迎えることはできません。「わたしたちの父ヤコブよりも偉いのですか」という問いは、主イエスがいったいどなたかを尋ねています。この私の人生全体を支えるもの、健康や財産、家族、地位や名誉、国、この世界、そういったもの全てに比べても、あなたは偉い方なのですか、と尋ねるのです。

主イエスは、すぐにこの女性の人生全体をわしづかみにして、ご自分がどなたかをお示しになりました。いつでも神の祝福を求めながら、満たされることなく、暑い日中に水を汲みに来なければならない悲しみを抱えている女性に、尽きることなく流れ続ける命の水を与えられたのです。

この女性は、大急ぎで町に帰っていき、主イエスのことを人々に伝えました。自分の人生が、神に知られていることを知り、神の御手の中にあることを知って、喜びにあふれたからです。先祖がみな待ち続け、この私も待ちこがれてきたメシヤ(救い主)に会ったと、言わないではいられなかったのです。人々は、この女性の証言を聞いてシカルの井戸に出かけ、主イエスにお出会いし、そして彼ら自身も、主イエスを救い主として信じるようになりました。

「わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」(14節)と約束してくださったお方によって、満たされることのない渴望から解放される。これが主イエス・キリストによる救いです。

この日、シカルの井戸でこの女性に出会って下さった主イエスは「サマリヤを通らねばならなかった」(4節)のです。この女性に出会い、この町に確かな救いを宣べ伝えるためにです。今朝もこの礼拝の場所はシカルの井戸です。主イエスがこの礼拝のただ中において下さり、私たちひとりひとりに出会い、語りかけ、主が、救い主であられることを明らかにして下さったからです。主イエスを信じ、主がお与え下さる命の水を注ぎ入れられて、私たちは生きるのです。

(記 岡村 恒)